SHOGAKUKAN RANDOM HOUSE ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY

〈パーソナル版〉

Edited by

SHOGAKUKAN

In Close Cooperation with

RANDOM HOUSE

SHOGAKUKAN RANDOM HOUSE ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY

〈パーソナル版〉

Edited by
SHOGAKUKAN
In Close Cooperation with
RANDOM HOUSE

重庆医科大学附属第一医院图书馆
馆藏专用章

SHOGAKUKAN

内部交流
S49/[illegible]点)　(英・日6-2/375)
小学館兰敦英日大辞典
T003100

〈パーソナル版〉全1巻
小学館ランダムハウス英和大辞典
SHOGAKUKAN RANDOM HOUSE
ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY

定価 9800円

昭和48年10月1日 (全4巻) 第1版 発行 ©
昭和50年12月1日 パーソナル版〔2冊組〕第1刷 発行 ©
昭和54年1月10日 パーソナル版〔全1巻〕第1刷 発行 ©
昭和57年1月20日 パーソナル版〔全1巻〕第6刷 発行 ©

編集　小学館ランダムハウス英和大辞典編集委員会

発行者　柏賀徹夫

発行所　株式会社 小学館
東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
〔郵便番号〕101　〔振替〕東京 8-200
〔電話番号〕編集 東京(03)230-5671
製作 東京(03)230-5333
販売 東京(03)230-5746

印刷　大日本印刷株式会社
特漉本文用紙　本州製紙株式会社
表紙クロス　東洋クロス株式会社
製本　中央精版印刷株式会社

本書の一部あるいは全部を無断で複写複製（コピー）することは，法律で認められた場合を除き，著作者および出版者の権利侵害となります。あらかじめ小社あて許諾を求めてください。

造本には十分注意しておりますが，万一，落丁・乱丁などの場合は，お取り替えいたします。

Shogakukan Random House English-Japanese Dictionary
©Copyright 1982, 1981, 1980, 1979, 1975, 1974, 1973 by Shogakukan

The Random House Dictionary of the English Language—The Unabridged Edition
©Copyright 1973, 1971, 1970, 1969, 1967, 1966 by Random House, Inc.

All rights reserved

Published in Japan by Shogakukan

Manufactured in Japan

SHOGAKUKAN RANDOM HOUSE ENGLISH-JAPANESE DICTIONARY

SHOGAKUKAN

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

編　集
小学館ランダムハウス
英和大辞典編集委員会

稲村松雄　末永国明
Jess Stein (*RHD*)　芹沢　栄
飛田茂雄
赤岩総雄　丹羽義信
荒木源博　萩原文彦
井口　濃　羽柴正市
伊東只正　橋本貞雄
生地竹郎　長谷川欣佑
大井邦雄　林　哲郎
大浦幸男　堀内克明
大沼雅彦　福村虎治郎
岡田秀穂　増山節夫
小栗敬三　宮田　齊
垣田　章　村田聖明
垣田直巳　渡部昇一
梶木隆一　渡辺藤一
木村和夫
郡司利男　羽染竹一
小西友七　山田繼雄
繁尾　久　L.C. Hauck (*RHD*)

EDITORIAL STAFF

柴田省三　P. Y. Su (*RHD*)

CONSULTANT STAFF

図書館学	長澤雅男
哲学	仁戸田六三郎
インド教	田中於兎彌
心理学	本明寛
心理学	織田正美
ギリシア神話	有田潤
北欧神話	山室静
イスラム教	松本耿郎
キリスト教	桑田秀延
キリスト教	滝沢陽一
キリスト教	増田良二
ユダヤ教	石川耕一郎
ユダヤ教	小田島太郎
考古学	小西正捷
イギリス文化	西田俊子
アメリカ史	清水博
紋章	高橋正人
政治学	飯坂良明
法学	高橋一修
法学	田島裕
経済学	種瀬茂
株式取引	柴田史郎
商業・会計学	新井益太郎
保険学	今川元司
統計学	竹内啓
社会学	宗像巌
教育学	岡津守彦
児童心理学	村山貞雄
ボーイスカウト	ボーイスカウト日本連盟国際部
ガールスカウト	ガールスカウト日本連盟事務局国際
服飾	山口好文
民族学	大林太良
文化人類学	清水昭俊
文化人類学	染谷臣道
数学	坂井忠次
物理学	矢崎紘一
熱力学	慶伊富長
化学	川久保正一郎
天文学	関口直甫

地質学	内田信夫
気象学	中島正一
気象学	根本順吉
鉱山学	武司秀夫
植物学	館岡亜緒
動物学	祖谷勝紀
動物学	原幸治
動物学	山本洋輔
魚類学	服部仁
鳥類学	黒田長久
昆虫学	黒澤良彦
医学	内藤壽七郎
医学	渡辺明
歯学	渡邊義男
薬学	藤井清次
土木・測量	高橋裕
土木・測量	田中寛好
土木・測量	阿部令一
鉄道	古谷善亮
鉄道	佐藤周一郎
鉄道	山口貫一
鉄道	小森修二
建築	小澤明
建築	山下泉
機械	渡邊茂
時計	藤平肇
時計	高木英彦
航空・ロケット	糸川英夫
航空・ロケット	的川泰宣
電子工学	斉藤成文
電子工学	野村民也
コンピューター	小野寺哲
海事・造船・海航	茂在寅男
軍事・築城	桃井真
金属	中村素
窯業	木村洋一
硝子	岡村恒夫
製靴	佐下宗慶
製紙	石凸功
繊維	川章一

食品	藤巻正生
醸造	大塚謙一
料理	村上信夫
料理	バーバラ寺岡
料理	岡松喜与子
家具	渡辺力
皮革	加藤一雄
林学	畑野健一
漁法学	井上実
漁法学	小倉通男
水産動物学	妹尾次郎
水産植物学	岩本康三
水産植物学	有賀祐勝
漁撈学	小池篤
切手	吉田景保
美術	寺田春弌
版画	中林忠良
写真	久保走一
印刷・ジャーナリズム	国司龍郎
音楽	角倉一朗
音楽	諸井昭二
ジャズ	油井正一
演劇・映画	中西由美
演劇・映画	樋口昌弘
スポーツ	古谷武雄
米式フットボール	武田建
ゴルフ	堀博
馬術	千葉幹夫
ビリヤード	厨川博孝
チェス	中川清
トランプ	黒川晶夫
言語学	高津春繁
言語学	原田信一
言語学	神尾昭雄
音声学	高本捨三郎
音響音声学	宮脇邦子
修辞学	皆川三郎
韻律学	難波利夫
韻律学	赤川裕

発刊の辞

All art is a collaboration.

ここに，この書を送り出すにあたって，われわれは，ある感慨をもってこの言葉を想起する。この大冊が，このような形に完成することができたのは，この編集に参加されたかたがたの努力と献身によることはもちろん，ひいては多くの先人たちの築き上げられた業績と蓄積に俟つところが大きいからである。

ひとりの天才の創造によって，あるいは，少数の碩学の努力によって，不朽の名著が生まれ，それらによって英語辞書の歴史は着実にその歩を進めてきた。しかし最近の諸学問，とくに科学・技術等の著しい発達は，おびただしい概念と語彙の膨張を招来しており，いまや多方面の頭脳の結集と共同作業なくしては，これらをカバーする新しい辞書の編集は不可能となるにいたった。

かえりみるに，1960年代は英語辞書史上に一時期を画したといってもよいであろう。ここにおいて，第二次世界大戦以後の英語研究の成果が，語彙において，発音において，語源において，一つの定着を見たのである。1961年，その改訂点をめぐって賛否の議論をまきおこした *Webster's Third New International Dictionary* が輝かしいさきがけをなし，続いて1966年には *The Random House Dictionary of the English Language* —The Unabridged Edition が，斬新な特色を具備して登場したのであった。

これらの壮挙は1970年代に引き継がれ，*The Oxford English Dictionary* が長い間の沈黙を破って，新補遺全3巻の刊行を開始したことも注目されなければならない。

まことに，新しい時代は新しい辞書の出現を要請するのである。

かねて，このような要請にこたえるべき辞書の発刊を企画していたわれわれは，これらの情勢のうちにあって，上記の「ランダムハウス英語大辞典」の中に拠って立つ方針を見いだしたのである。「ことばの辞書」と「ことがらの事典」との融合を実現し，生きて機能する英語を正確に記録するという記述主義をとりながら，規範的立場をも失わないこの辞書のいわば「言語学的に穏健な中道」(a linguistically sound middle course)の中に，われわれは支持し賛同するものを見いだしたのであった。

この辞書の序文で，編集長 Jess Stein は次のように述べている。"We have been guided by the premise that a dictionary editor must not only record; he must also teach." 「辞書編集者は単に記録するばかりでなく，教示しなくてはならない。」という言葉は，英語を外国語として学ぶわれわれには，傾聴に値する宣言であるといわなくてはならない。

この大著のなし遂げた成果の上に立ち，真に日本人に益するところの辞書を編集することができたら，という強い希求をもって，われわれは，この書の版権をランダムハウス社から取得する交渉に踏み切る決意をしたのである。

辞書出版史上にいまだその例を見なかったこの試みは，当然のことながら，かなりの曲折と困難を経なければならなかった。

われわれは，この大著の版権を許与された同社の度量と寛容に感謝する。また編集の全期間にわたり，たえず新しい改訂資料を提供されたばかりでなく，同辞典の編集者を派遣して数々の助言を賜わった同社の友誼と好意に，改めて謝意を表するものである。

この書の長い編集作業の過程にあって，われわれが最も苦慮し努力を傾注してきた編集上の力点は，このすぐれたアメリカの文化所産を移植し，いかにしてわれわれ日本人にふさわしい英和辞書として開花させるかにあった。

原典の簡潔・明解な定義を，そのニュアンスを伝えてしかも的確な訳語に置き換えることはいうまでもない。原典には少ない例文とイディオムを補足し充実させることが最も肝要であった。そのために，米英の現代文学作品・新聞・雑誌などを渉猟して，広範なフィールドワークを展開する必要があった。こうして集められた斬新な用例は，われわれの辞書にかつてないほどの生新さと豊かさを与えることになった。

原典のきわだった特色の一つをなしている専門語を究明していく過程の中では，その領域のあまりの多岐多様のために，蘭学事始にも似た苦心を味わわねばならなかった。この過程においては，さいわい各方面の専門家の精密な校閲をいただくことができた。

われわれは，このような英語学界ならびに各部門にわたる専門家諸氏の並々ならぬ労苦に対して感謝の言葉を知らない。これらのかたがたの一丸となった共同作業がなかったら，この書は完成をみることはなかったであろう。

原典の卓抜した諸特色の上に，日本人の使用のために上述のような独自の配慮を加えて，わが国辞書史上に新しいページを開くことを念願したわれわれの試みが，情報化社会といわれる今日において，一つの指針となり，各界の切実な要請にこたえるものともなれば，われわれの喜び，これにすぎるものはない。

1973年9月

小　学　館

小学館ランダムハウス
英和大辞典編集委員会

Foreword

The publication of the *Shogakukan Random House English-Japanese Dictionary* is an event of major importance. Many hundreds of scholars and editors, in the United States and in Japan, working with skill and devotion over a number of years, have made this dictionary possible. Never before in the history of lexicography has there been an English-Japanese dictionary as comprehensive, authoritative, and modern as this one.

In the development of *The Random House Dictionary of the English Language*, more than 350 experts contributed toward the creation of a reference book that would meet the highest, most demanding standards of excellence. The best aspects of traditional lexicography were merged with the newest approaches and techniques. For example, extensive use was made of computers, special electronic devices for the display of texts, and high-speed reproduction equipment, enabling us to analyze, arrange, and review all editorial material with greater efficiency than had ever been possible before.

The Random House Dictionary filled a great need by providing a source of reference on the English language that was extensive in its coverage, dependable in its scholarship, and up to date in its content. Entirely new, the first of its kind to be written in the twentieth century, it was widely received with favor by scholars and laymen alike, so much so that it became the first dictionary ever to appear on best-seller lists in the United States.

Shortly after the appearance of *The Random House Dictionary*, discussions were initiated for the preparation of *The Shogakukan Dictionary*. The editors and officers of Random House were particularly impressed by the determination of our counterparts at Shogakukan to produce the best possible English-Japanese dictionary. For that reason, Random House gave permission to Shogakukan to make complete use of our dictionary—an agreement that we had never before given for a dictionary published outside the United States.

As work on the Shogakukan dictionary progressed, a steady flow of correspondence and visits kept the staffs of both companies in constant touch. The close cooperation between the two staffs was highly productive, we believe, because of the warm mutual respect and the singular dedication to high quality held by all those involved.

In developing the Shogakukan dictionary, the editors have wisely and skillfully modified or expanded the Random House version so that the particular needs of Japanese readers are effectively met. Thus, for instance, there has been extensive addition of example sentences and phrases in order to reflect more fully contemporary literature, journalism, modern science, broadcast materials, etc. The editors have demonstrated exceptional knowledge of the English language, bringing to their task the kind of sensitivity to meanings that is only rarely achieved.

We at Random House take great pleasure and pride in the achievement of our colleagues at Shogakukan in producing this dictionary. We believe that it will be a significant contribution to the ever-increasing cultural relationship between our countries. I am deeply grateful for the opportunity given me in this foreword to express our admiration of the dedication and foresight shown by the directors and editors at Shogakukan in making this fine bilingual dictionary possible.

Jess Stein

Jess Stein
Editor in Chief
The Random House Dictionary of the English Language

凡　　例

I. 見出し語 (ENTRY WORD OR WORDS)

本文には一般の英語語句のほか，固有名詞・常用外来語句・略語・接頭辞・接尾辞・連結形・造語要素などを見出し語として示し，すべてアルファベット順に配列した．

A. 字体 (Typeface)

1. 一般の見出し語は，立体のボールド体で示した．
   bake·ware [···] *n.* ···.
2. 外来語または外来語句，書物などの表題，印刷の際イタリック体を使用するもの，タイプ印字の際下線を施すものなどは斜体のボールド体で示した．
   bas·so·ri·lie·vo [···] *n.* (*pl.* **bas·si·ri·lie·vi**) 《イタリア語》···.
   hô·tel de ville [···] (*pl.* **hô·tels de ville**) 《フランス語》···.
   Mádame Bóvary 「ボバリー夫人」: Gustave Flaubert 作の小説 (1857).

B. 分綴法 (Syllabification)

分綴は，印刷およびタイプ印字の際に用いられる米国式の分綴の原則に従い，これに若干の修正を行なった．

1. 2音節以上から成る単一語の見出し語には中丸点（・）で分綴を示した．
   ac·claim [···] *v.t.*
   ac·com·plish [···] *v.t.*
2. 見出し語の分綴は，原則として最初に示した発音に対応させた．
   stə·tus [stéitəs, stǽtəs|stéi·] *n.*
   re·cord [*v.* rikɔ́rd|-kɔ́:d; *n.*, *adj.* rékərd|-kəd]
   《注》status では，[stǽtəs] と発音される場合は分綴は stat·us となり，record では名詞または形容詞として用いられるときは，rec·ord と分綴するが，この区別は示していない．
3. ハイフンの付いた見出し語では，そのハイフンが，そこにあるべき分綴点（・）を兼ねている．
   in-law [ínlɔ:]
4. 2行にわたる場合，行末の切れ目は分綴点（・）の代りにハイフンで示した．
   di·chlo·ro·di·phen·yl·tri·chlor·o·eth-ane [···] *n.*
   《注》その語本来のハイフンがある位置と行末の切れ目が一致する場合は二重ハイフン (=) を用いて区別した．
5. 2語以上から成る連語見出し語を構成する個々の単語が独立の見出し語として掲げてある場合は分綴を示さなかった．またいくつかの同形異義語 (D. 参照) では，初出のときだけに分綴を示した．
   Bar·ba·ry *n.*
   Bárbary Státes
   しかし，次のような借用語ではすべて分綴を示した．
   lap·sus ca·la·mi
   lap·sus lin·guae
   lap·sus me·mo·ri·ae

C. 強勢 (Stress)

2語以上から成る連語見出し語では，連語としての強勢を，第1強勢符（´）と第2強勢符（`）を用いて，それぞれの語の母音の上に示した．

1. 連語見出し語で強勢が [ˊ ˋ] となる型では，それぞれの語にほぼ同等の強勢が置かれることを示す．
   góod wíll
   Babylónian captívity
2. 第1の語が第2の語に比べて，かなり弱い強勢を持つ場合には [ˋ ˊ] の型を用いた．
   Nèw Lóndon
   Mòunt Clém·ens
3. 連語見出し語に示された強勢は，それぞれの語が独立して用いられるときに持つ強勢とはおのずから違うものである．
   Mon·te·rey [mɔ̀ntəréi|mɔ̀n-] *n.*
   Mónterey Báy
4. 地域によって，または人によって異なる強勢を持つ見出し語には最も頻度の高い強勢を示した．
   cóttage chèese
   créam sóda
   hót ròd
5. 語義によって強勢の型が異なる連語見出し語については，その別を示した．
   party line [1, 2 で párti làin; 3, 4 で párti láin]
6. 次の連語見出し語には強勢は示さなかった．
   発音記号に示された強勢どおりに発音されるもの：
   dum spi·ro, spe·ro [dum spi:rou, spéirou; *Eng.* dʌm spáirou; spi:rou|spiərəu]
   ローマ数字を含むもの：**Henry V**
   略語を含むもの：**St. George's Channel**
   アルファベットの文字を含むもの：**K ration**

D. 同形異義語 (Homographs)

1. つづりは同じでも語源・語義が異なる語は，見出し語の右肩に小数字を付けて区別した．
   bow¹ [bau] *v.i.*
   bow² [bou|bəu] *n.*
   bow³ [bau] *n.*
2. 次のような場合は肩付き小数字を付けなかった．
   (1) 大文字で始まるものと小文字で始まるもの：
   thorn [θɔrn|θɔ:n] *n.*
   Thorn [tɔrn] *n.*
   (2) 区別的発音符 (diacritical mark) のあるものとないもの：
   pique¹ [pi:k] *v.* (**piqued, piqu·ing**), *n.* —*v.t.* **1** ···.
   pique² [pi:k] *n.* 〖トランプ〗 = pic.
   piqué [pikéi, pi:-|pí:kei; *Fr.* pi:kéi] *n.*
   coupe¹ [ku:p] *n.*
   coupe² [ku:p] *n.*
   coupé [ku:péi|ˊ—; 1, 5 でまた ku:p] *n.*
   (3) 立体のものと斜体のもの：
   beg [beg] *v.* (**begged, beg·ging**) —*v.t.* ···.
   beg [beig; *Eng.* beg] *n.* 《トルコ語》 = bey.

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com

E. 追込み見出し語 (Run-on Entries)

1. 見出し語の派生語で意味が自明なものは，語源欄のあとに，(—) に続けてボールド体でアルファベット順に掲げ，品詞記号のみを示した．

   bear·a·ble [···] *adj.* ···. [BEAR[1] + -ABLE] —**béar·a·ble·ness** *n.*

2. 同一品詞中に2つ以上の別形があるときは頻度の高い順に掲げた．

   de·lec·ta·ble [···] *adj.* ···. —**de·léc·ta·ble·ness, de·lèc·ta·bíl·i·ty** *n.* —**de·léc·ta·bly** *adv.*

3. 見出し語の発音から推して自明であるものには発音表記を省略し，強勢のみを示した．ただし自明でないものには発音を表記した．

   de·fraud [difrɔ́:d] *v.t.* ···. —**de·frau·dá·tion** [di:frɔ:déiʃən|di-], **de·fráud·ment** *n.*

4. 2語以上から成る追込み見出し語には強勢のみを示した．

   toe-dance [···] *v.i.* ···. —**tóe dàncer.**

F. 欄外見出し語 (Undefined Entries)

1. anti-, pre-, un- などの造語要素や接頭辞と結合して構成された派生語のうち，それぞれの要素に分解してみることによって，語義がおのずから明白となる語については，語義・解説を与えず，欄外にアルファベット順に掲げた．
2. これらの見出し語には分綴と強勢を示し，品詞記号を付記した．
3. あるページに掲げられた欄外見出し語の範囲は，そのページに収められている本文の見出し語の範囲と一致するようにして，検索の便を図った．

II. 相互参照 (CROSS REFERENCES)

異形や別名のある場合，現代英語として最も一般的に用いられる見出し語でその語義を解説し，頻度の低い異形や別名などはそこを参照するようにした．また関連のある見出し語間でも相互に参照できるようにした．

A. 異形 (Variants)

1. 見出し語の異形や別の言い方は（また…）という形でボールド体で示した．これらが独立の見出し語として掲げてない場合は適宜，分綴・強勢・発音などを示した．

   pre·em·i·nence [···] *n.* ···. (また **pre·ém·i·nence, pre·ĕm·i·nence**)
   Ched·dar [···] *n.* チェダーチーズ···. (また **Chéddar chéese**)
   val·or [···] *n.* ···. (また《特に英》**vál·our**)

2. ある異形がすべての語義に適用されるとき，あるいはその中での2つ以上の語義に適用されるときは解説のあとに示した．

   cab·a·la [···] *n.* **1** ···. **2** ···. (また **cabbala, kab·ala, kabbala**) [< ML *cab(b)ala* ···]
   Bern [···] *n.* **1** ベルン: スイス西部の都市で同国の首都···. **2** ベルン: スイス西部の州···. **3** 男子の名. (また 1, 2 で **Berne**)

3. ある異形が一つの品詞だけに適用される場合は，その品詞記号の直後に解説に先立って示した．

   eaves·drop [···] *v.* (**-dropped, -drop·ping**)···. —*n.* (また **eaves·drip** [i:vzdrìp]) ···.

4. ある異形が一つの語義だけに適用される場合は，その語義の解説の末尾に示した．ただし最終の語義の場合は，その語義番号のあとに，解説に先立って示した．

   Brah·man [···] *n.* (*pl.* **-mans**) 《ヒンズー教》**1** ブラーフマナ，バラモン(婆羅門): ···. (また **Brahmin**) **2** (また **Brahma**) ブラフマン，梵(ぼん): ···.

5. 使用頻度の少ない異形や別の言い方では語義は示さず，＝を用いて語義・解説を掲げた見出し語を参照させた．

   nick·nack [···] *n.* = knickknack.
   béach wàgon 《米》= station wagon.

B. 別名 (Alternative Names)

1. 地名・人名・作品名などの固有名詞は，米英で一般的に用いられている呼称を主要見出し語とし，そこで解説を与えた．別名については，地名の場合は解説のあとにボールド体で，人名の場合は訳語に先立ってかっこの中に斜体で示した．

   Czech·o·slo·va·ki·a [···] *n.* ···. 公式名は **Cséchoslóvak Sócialist Repúblic.** (また **Czèch·o·Slo·vá·ki·a**)
   Clem·ens [···] *n.* **Samuel Lang·horne** [···], (*"Mark Twain"*), クレメンズ (1835–1910): ···.

2. 別名・古代名・原地名なども見出し語に掲げ，訳語として日本で一般的に用いられている呼称を示した．なお語義・解説を与えてある主要見出し語をボールド体で示して参照の便を図った．

   Lu·té·tia Pa·ris·i·ó·rum [···] **Paris** の古代名.
   Fi·ren·ze [···] *n.* フィレンツェ. **Florence** のイタリア名.
   Twain [···] *n.* **Mark,** マーク=トウェイン: **Samuel Langhorne Clemens** の筆名.

C. 変化形 (Inflected Forms)

変化形を見出し語として掲げたときは，それぞれの原形をボールド体で示して参照させた．

   ran [···] *v.* **run** の過去形.
   o·per·a[2] [···] *n.* 《おもに音楽》**opus** の複数形.

D. 略語 (Abbreviations)

略語を見出し語として掲げたときは，それぞれの元の形をアルファベットの順に示した．なお記号化した略語についても一般の略語と同じに扱った．

   N.Y.C. 《略》**1** New York Central. **2** New York City.
   ca. 《略》**1** cathode. **2** centiare. **3** (また **ca**) 《ラテン語》*circa* およそ, 約 (about).

III. 発 音 (PRONUNCIATION)

発音は見出し語の直後に [ ] に入れて示し，原則として使用度順に併記した．

A. 発音表記

1. 発音記号には IPA (International Phonetic Alphabet) を用い，米音を先に示し，縦線を引いて次に英音を示した．

   hot [hɑt|hɔt]
   an·swer [ǽnsər, ɑ́:n-|ɑ́:nsə]

2. 併記された発音記号中の一部が先に示された発音記号と共通する場合は，原則として音節単位でハイフンによりその部分を省略した．
3. 単に強勢だけが移動する場合は発音記号を併記せず，音節数だけハイフンを並べ，その上に強勢符号を置いた．

   blas·pheme [blæsfí:m, ⌿ –|– ⌿]
   mi·grate [máigreit|– ⌿]

   ただし品詞によって強勢が移動する場合はハイフンによる表示は行なわなかった．

   a·bout-face [*n.* əbáutfèis, – ⌿ ⌿; *v.* əbàutféis]

4. 発音の区切りは，原則として見出し語の分綴に一致させたが，原則に従わなかった場合もある．

   no·ta·tion [noutéiʃən|nəu-]
   leath·er·wood [léðərwùd|-ðə-]
   ab·o·ral [æbɔ́:rəl, -ɔ́:r-|-ɔ́:r-]

5. 品詞によって，また語義によって発音が異なる場合は次のように示した．

close [*v.* klouz|kləuz; *adj.* 1–26, 29, 30 で klous|kləus, 27, 28 で klouz|kləuz; *adv.* klous|kləus; *n.* 1, 2, 5, 6, 8, 9 で klouz|kləuz, 3, 4, 7 で klous|kləus]

6. ある専門分野における特殊な発音は次のように示した．

south·west [sàuθwést; 〔海事〕 sàuwést]
A·bra·ham [éibrəhæm, -həm|éi-, 〔聖書〕 á:-]

7. 連語見出し語において，発音が別の場所で示されている単語には強勢のみを示して発音表記は省略し，見出し語として出ていない新出語についてのみ分綴と発音を示した．

e·lec·tro·or·gán·ic chémistry [ilèktrouɔr-gǽnik|-trəuɔ:-]

8. 発音に強弱のある場合および特に注意を必要とする場合は次のように示した．

and [ænd; 〔弱〕 ənd, ən, nd, n; 〔p, b のまえで〕 m, 〔k, g のまえで〕 ŋ]
her [hə:r|hə:; 〔弱〕 hər, ər|hə, ə]

B. 強勢符 (Stress Marks)

強勢符は強音節の母音の上に付けた．第1強勢 (primary stress) には (´) を，第2強勢 (secondary stress) には (`) を付けた．

at·ti·tude [ǽtitù:d, -tjù:d|-tju:d]

ただし単音節語には強勢符を付けなかった．

board [bord, bɔrd|bɔ:d]

C. 外国語の発音 (「発音解説」参照)

使用者の便利を考えて IPA 方式で示した．立体で掲げた見出し語は近似の英語音のみで示したが，斜体のボールド体で掲げた見出し語には原音と英語化された発音を併記した．

ab o·rig·i·ne [ɑ:b ouríginè; *Eng.* æb ɔ:ridʒəni:, ɔ:ridʒ-|ɔ:ridʒi-] 〔ラテン語〕

IV. 品詞の表示 (PARTS OF SPEECH)

1. 見出し語の品詞の表示は，語義に先立って斜体の略記号を用いて示した．

n. ……noun	*adj.*……adjective
pron. …pronoun	*adv.*……adverb
v. ……verb	*prep.* …preposition
v.t.……transitive verb	*conj.* …conjunction
v.i.……intransitive verb	*interj.*…interjection
auxiliary v.……auxiliary verb	

接頭辞・接尾辞は，それぞれ *pref.*, *suf.* とし，略語は〈略〉とした．

2. 見出し語が2つ以上の品詞を持つときは次のように示した．

(1) 品詞によって発音が異なる場合：

in·tro·vert [*n.*, *adj.* íntrəvə:rt|íntrəuvə:t; *v.* ìntrə-və́:rt|ìntrəuvə́:t] *n.* **1**〔心理〕…. **2**〔話〕…. —— *adj.*〔心理〕…. —— *v.t.* **1** …. **2**〔心理〕….

(2) 品詞による語形変化を示した場合：

brave [breiv] *adj.* (**brav·er, brav·est**), *n.*, *v.* (**braved, brav·ing**) —— *adj.* …. —— *n.* …. —— *v.t.* ….

V. 変化形 (INFLECTED FORMS)

名詞・代名詞・形容詞・副詞および動詞の変化形で注意すべきものは，それぞれ品詞記号の直後にボールド体で ( ) 内に示した．ただし，この場合ハイフンを用いて見出し語と共通の部分を省略したものもある．

A.

不規則な変化形はすべて示したが，規則変化をする語でも，誤解を避けるためにその変化形を掲げたものもある．

1. 子音+y で終わる名詞・形容詞・動詞：

stead·y [stédi] *adj.* (**stead·i·er, stead·i·est**), *interj.*, *n.* (*pl.* **stead·ies**), *v.* (**stead·ied, stead-y·ing**), *n.* —— *adj.* ….

2. e で終わる形容詞・動詞：

fine[1] [fain] *adj.* (**fin·er, fin·est**), *adv.*, *v.* (**fined, fin·ing**), *n.* —— *adj.* ….

3. 最後の子音を重ねて変化形をつくる形容詞・動詞：

big[1] [big] *adj.* (**big·ger, big·gest**), *adv.* —— *adj.* ….

ad·mit [ædmít|əd-] *v.* (**-mit·ted, -mit·ting**) —— *v.t.* ….

4. 語中のつづりを一部変えて変化形をつくる名詞・動詞：

half [hæf, hɑ:f|hɑ:f] *n.* (*pl.* **halves** [hævz, hɑ:vz|hɑ:vz])
steal [sti:l] *v.* (**stole, sto·len, steal·ing**), *n.*

5. 原形を全く変えて比較級・最上級をつくる形容詞：

good [gud] *adj.* (**bet·ter, best**), *n.*, *interj.*, *adv.*

6. 本来の英語でない名詞：

a·lum·na […] *n.* (*pl.* **-nae** [-ni:])

7. 複数形が単数形と同形の名詞：

〃 **Chi·nese** […] *n.* (*pl.* **-nese**), *adj.*

8. 星座のラテン語名で属格を示す場合：

O·ri·on […] *n.* (2で *gen.* **Or·i·o·nis** […]) **1**〔ギリシア神話〕オリオン：…. **2**〔天文〕オリオン星座：….

〈注〉この属格の形は，その星座中の星の名を呼ぶときに用いられる．ベテルギュース星は，オリオン星座中最も強く光る星であるが，これを Alpha Orionis のように呼ぶ．

9. 代名詞の主格でその格変化を示す場合：

I [ai] *pron.* (主格 **I**, 所有格 **my, mine**, 目的格 **me**; 〔複数〕主格 **we**, 所有格 **our, ours**, 目的格 **us**), *n.* (*pl.* **I's, Is**)

B.

つづり字上の誤りを避けるために次のような語については，それぞれ複数形を示した．

1. -o, -ful, -ey, -us で終わる名詞：

po·ta·to […] *n.* (*pl.* **-toes**)
cup·ful […] *n.* (*pl.* **-fuls**)
mon·key […] *n.* (*pl.* **-keys**), *v.* (**-keyed, -key-ing**)
pro·spec·tus […] *n.* (*pl.* **-tus·es**)

2. 複合語で語尾に置かれている要素が単独の語として用いられる場合には違った複数形をとる名詞：

mon·goose […] *n.* (*pl.* **-goos·es**)

〈注〉goose という単一語は複数形は geese となり，誤りやすいため．

3. 複数形の発音を誤りやすい名詞：

path [pæθ, pɑ:θ|pɑ:θ] *n.* (*pl.* **paths** [pæðz, pɑ:ðz, pæθs, pɑ:θs|pɑ:ðz]
pe·so [péisou|-səu; *Sp.* pésɔ:] *n.* (*pl.* **-sos** [souz|-səuz; *Sp.* -sɔ:s])

4. 2語以上から成る連語見出し語で，最終要素以外の単語が変化するもの：

ádjutant géneral (*pl.* **adjutants general**)

C.

2つ以上の変化形を持つ語については，適宜，指示を与えて，すべての変化形を示した．

la·bel […] *n.*, *v.* (**-beled, -bel·ing** or 〔特に英〕 **-belled, -bel·ling**)
break […] *v.* (**broke** or 〔古〕 **brake; bro·ken** or 〔古〕 **broke; break·ing**), *n.*
bass[2] […] *n.* (*pl.* 〔特に集合的に〕 **bass**, 〔特に2種類

以上をさすとき) **bass·es**)

D. 動詞の変化形

1. 2つの形を示した場合は，前者が過去・過去分詞で後者が現在分詞であることを示す．
   love [···] *n.*, *v.* (**loved, lov·ing**)
   put [···] *v.* (**put, put·ting**)
2. 3つの形を示した場合は，順に過去形，過去分詞，現在分詞であることを示す．
   run [···] *v.* (**ran, run, run·ning**), *n.*, *adj.*

VI. 語 義 (DEFINITIONS)

A.

語義・解説は当用漢字・新かなづかいを用いることを原則としたが，専門語などで当用漢字以外の漢字を用いたときは極力ふりがなを付けた．

1. 品詞ごとに **1, 2, 3** …の番号を付けて語義を区分した．品詞の順，およびそれぞれの品詞中での語義配列の順は，原則として使用頻度の順とし，特殊語義，希用語義，古用，廃用となった語義などは原則として品詞ごとに最後に掲げた．しかし，関連する語義を一括して説明するほうが望ましい場合には，この順序を変更したものもある．
2. 必要に応じて一つの語義番号内を(1)(2)(3)…と細別したものもある．
3. 語義によって見出し語の形が異なる場合は，次のように指示した．
   pa·cif·ic [···] *adj.* **1** 和解的な (conciliatory) ···. **5** 《P-》太平洋の: ···. **6** 《P-》太平洋沿岸の: ···. **—** *n.* 《P-》**1** = Pacific Ocean. **2** 蒸気機関車の一種···.
   その他か，語義番号の直後に次のような指示をした．
   《*pl.*》《the を冠して》,《the -s》···
4. 複数形でありながら単数として扱われる場合，語義に先立って次のように指示した．
   ten·pin [···] *n.* **1** ···. **2** 《*pl.*》《単数扱い》十柱戯: ···.
   《注》上の2の場合，形は tenpins と複数形をとるが，用法では単数の動詞で受けることを表わす．
   複数形の見出し語が単数の動詞をとることを表わす場合も同様である．
5. 訳語のニュアンスを補足する同意語句は，訳語のあとに( )に入れて示した．
   a·bol·ish [···] *v.t.* **1** (法律・制度・習慣などを) 廃する，廃止する(do away with); 終わらせる(put or make an end to); ···.
6. 構文上・用法上の指示は訳語に先立って《 》の中に，見出し語に伴って用いられる前置詞・副詞などの指示は訳語・同意語句の次に同じく《 》に入れて斜体で示した．
   be·gone [···] *v.i.* 《通例命令文で》立ち去る(go away, depart) ···.
   as·sess [···] *v.t.* **1** ···. **3** (税金・料金などを) 課する，賦課する(impose) 《通例 *upon, on* を伴う》: ···.
7. 専門語などで，一般利用者になじみの少ない訳語については，(:) に続けてさらに詳しく解説した．
8. 関連して知っておきたい参考事項・背景的知識などは ◆ に続けて解説した．

B. 固有名詞 (Proper Names)

1. 人名の扱い方
   原則として原音に合わせてカタカナで表記し，次いで生没年，代表的業績，役職期間などを示した．
   An·drić [ɑ́:ndritʃ] *n.* **I·vo** [í:vo:], アンドリッチ(1892–): ユーゴスラビアの詩人・小説家・短編作家; Nobel 文学賞受賞 (1961).
2. 地名の扱い方
   原則として原地音に合わせてカタカナで表記した．
   (1) 現地名以外に，日本で慣用的に使われている呼称がある場合は併記した．
   Dan·ube [···] *n.* ドナウ川, ダニューブ川: ···.
   (2) 説明文中の固有名詞は，国名はカタカナで，その他は原則として英語でしるした．ただし日本で慣用的に使われている呼称と英語の呼称とがかなり異なるものについては両者を併記した．
   ウズベク共和国 (Uzbekistan), Munich (ミュンヘン) など．

C. 文学作品・聖典名などの表記

作品名・著作名は「 」内に示し，コロン (:) を置いて簡単な説明を加えた．

Álice's Adventures in Wónderland 「不思議の国のアリス」: Lewis Carroll 作の童話 (1865). (また **Álice in Wónderland**)

D. 類義語 (Synonyms)

1. 見出し語の語義・解説の末尾に **—Syn.** の略記号に続けて語義番号に対応した類義語を示した．
2. また，類義語を示したあとに必要に応じて類義語の解説欄を設けた．この欄では類義語相互のニュアンスの相違を解説し，その相違の理解に役だつ用例をそれぞれに示した．
3. この欄で取り上げた語については，それぞれの見出しから参照できるように指示を与えた．
   cen·ter [···] *n.* **1** 中心. **2** ···.
   —Syn. 《*n.*》**1** → **middle.**

E. 反義語 (Antonyms)

1. 見出し語の語義・解説の末尾に **—Ant.** の略記号に続けて語義番号に対応した反義語を示した．
2. 各語義，または見出し語の意味と対照的な意味を持つ語句は語義のあとに (↔) の記号を用いて示した．
   círcumstántial évidence 情況証拠, 間接証拠 (↔ direct evidence): ···.
   diréct évidence 〔法律〕直接証拠 (↔ circumstantial evidence): ···.
3. 合わせて参照しておくことが望ましい関連語句は, cf. に続けてボールド体で示した．
   ni·dic·o·lous [···] *adj.* 〔鳥類〕留巣性の: ···. cf. **nidifugous.**
   ni·dif·u·gous [···] *adj.* 〔鳥類〕離巣性の: ···. cf. **nidicolous.**

F. 特殊語の表示 (Restrictive Labels)

1. 見出し語または一部の語義が，ある特定の地域・時間・表現様式・専門領域などに限って用いられるときは，次のように《 》または〔 〕の中にそれぞれの指示を与えた．
   (1) 地域に関するもの: 《米》, 《英》, 《オーストラリア》, 《カナダ》, ···
   (2) 時間に関するもの: 《古》, 《廃》, 《廃語化》, 《もと》, 《非現用》, ···
   (3) 語の位相に関するもの: 《俗》, 《卑》, 《話》, 《文語》, 《詩語》, 《小児語》, ···
   (4) 専門領域に関するもの: 〔物理〕, 〔化学〕, 〔紋章〕, 〔ギリシア神話〕, ···
   場合によっては，これらの指示を組み合わせて使用することもある．《鉄道》《俗》
   《注》これらの指示のうち，とくに (1) については，その

区別は絶対的なものとはいえない．したがって《英》《米》と指示があっても，それぞれ "chiefly British", "chiefly American" と解すべきものであろう．

2. この表示が一つの品詞のすべての語義に適用されるときは品詞記号の直後に示した．また2つ以上の品詞があって，そのすべてに適用されるときは，最初の品詞記号に先立って示した，

fi·ne[3] […] *n.* 〔音楽〕 **1** (da capo, dal segno のくり返し部分の) 終結，終り．**2** (多楽章構成の曲の) 終止，終り (end).

la·bi·o·ve·lar […] 〔音声〕 —— *adj.* ([w] のように) 両くちびると軟口蓋を同時に働かして発音する，唇軟口蓋音の．—— *n.* 唇軟口蓋音．

3. この表示が，ある語義だけに適用するときは，該当語義番号のあとに語義に先立って示した．

a·vun·cu·lar […] *adj.* **1** おじ (uncle) の；おじらしい：…．**2** 《廃》 質屋 (pawnbroker) の．

4. 一つの語義中で，表示がその細区分のいずれにも適用されるときは，細区分の番号に先立って示した．

hi·lum […] *n.* **1** 〔植物〕 臍(さい)．(1) 種子の胚種が胎座に付着していた部分の痕(こん)跡．(2) 澱粉粒の貯蔵される白色体の核．**2** 〔解剖〕 門：…．

G. 図解 (Illustrations)

理解を助けるために，図解・地図・表などを示した．必要に応じて他の見出し語から，これらを参照できるように指示を与えた．

VII. 用 例 (Example Phrases or Sentences)

A.

語義・補足的説明・類義語などでは十分に把握しがたい見出し語のニュアンスならびに用法の理解に役だてるために，最新の各種の資料から直接に収集した用例を豊富に掲げた．

1. 語義の終りを示すコロン (：) に続けて収録した．コロンのあとに説明があるときは，その説明の終りを示すピリオドに続けて収録した．
2. 用例はすべて斜体であげた．
3. 個々の用例の初めには，すべてダッシュ (—) を付けた．
4. 同意の英文が2つ以上並び，訳文が共通であるとき，または詩などで原典の改行を示すときは，斜線 (/) を用いた．
5. 用例の訳は，つとめて現代口語を用い，主語は誤解のおそれのないかぎり省略した．
6. 用例の中には，広く次のようなものをも含めた．
   (1) その見出し語を含む複合語
   (2) 完全に成句化していない連語
7. 用例は原則として連語・句・節・文の順に配列した．なお，ことわざや出典をしるした用例は，通例最後に収録した．
8. Shakespeare, 聖書からの引用には，原則として出典を明記した．(「略語表」参照)

   〈Shak. *Ham.* I. ii. 135–6〉
   〈〔聖書〕 *Prov.* 15: 1〉

   《注》聖書からの引用ではなく，単に由来を示すにすぎない場合は，cf. として区別した．
   (1) Shakespeare の作品の行数は Globe Edition によった．
   (2) 用例中の聖書の英語訳は原則として Revised Standard Version により，邦訳は日本聖書協会発行の口語訳によった．King James Version を使用した場合は，邦訳は文語訳を用いた．
   (3) Shakespeare, 聖書以外の出典は，次のように〈 〉中に示した．

   err […] *v.i.* **1** …．**2** (道徳的に) あやまちを犯す，…：— *To err is human, to forgive divine.* あやまちは人の常，これを許すは神〈Pope〉．

B. かっこの使い方

用例中のかっこは，訳語・用例・成句についても同様であるが，次のように用いた．

1. 言いかえの場合の (or　)，および省略の場合の [　] は，成句の項参照．
2. (　) は，この中の語句が，かっこの直前の語句と交換しうることを示す．

   an·dan·te […] … —— *adj.*, *adv.* 適度にゆるやかな (に)．

   《注》*adj.* では「適度にゆるやかな」となり *adv.* では「適度にゆるやかに」となることを表わす．

   at·tain […] *v.t.* **1** …：—*attain one's goal* (*desire*) 目標(望み)を達成する．

C. 語法 (Usage Notes)

1. 見出し語の語義・解説の末尾に —Usage. に続けて文法上・語法上の注意すべき事柄を示した．
2. また文法・慣用その他の点で必要と思われる注意事項を，► に続けて，見出し語の解説中の随所に入れた．

VIII. 成 句 (Idioms)

1. 成句は，品詞ごとにまとめて語義・解説の最後に，斜体のボールド体ですべて改行で示した．成句中に2つ以上の主要語 (key word) を含み，どの主要語でも引かれる可能性のあるものは原則としていずれか一方の見出し項目で解説し，他方から参照させた．

   pat[1] の項で，

   pat on the back 《話》 激励する (encourage) …．

   back[1] の項で，

   pat on the back → **pat**[1] (成句)．
2. 成句の配列は，原則として成句を構成する各語のアルファベット順によった．ただし句頭の冠詞，細字の斜体の部分は，文例によって変化しうるものであるので，配列上考慮しなかった．
3. 動詞の成句は，自動詞・他動詞の区別はせず，まとめて示した．
4. 1つの成句が2つ以上の意味を持っている場合には，(1)(2)(3)…の番号によって区分した．

   break in (1) 押し入る，侵入する…．(2) …を訓練する，を仕込む．(3) (靴など) はきならす…．
5. 語義の場合と同じく，成句にも《話》《俗》などの別を示した．

   hit the sack 《俗》 床につく (go to bed) …．
   sack out 《俗》 床につく (go to bed) …．
6. 直前の語句と言いかえても意味・用法の変わらない語句は (or) で，省略できる語句は [　] で包んだ．

   a bowing (or ***nodding***) ***acquaintance*** (1) 会釈をかわす程度の間柄 (知人)．(2) わずかな知識．
   make [***both***] ***ends meet*** 生活の収支を合わせる，…．
7. 成句中，*one, one's* は主として「主語自身，自分」を，*a person, a person's* は「主語以外の人，相手」を表わす．

   play one's cards 計画を実行する．
   hang up ones's ax 無用の計画を中止する．
   sell a person a bargain (1) からかう，なぶる．(2) 予想外の返事をして人をまごつかせる．
8. 成句中，細字斜体の *do* は，任意の動詞に置きかえられることを示す．
9. 同意の成句は (/) を引いて併記した．

   for mercy/for mercy's sake どうぞ，後生だから．

   ただし配列上かなり離れるものについては，次のように示した．

   come around (or ***round***) (1) …．
   come round = come around.

IX. 語 源 (ETYMOLOGIES)

語源は語義・解説のあとに，[ ] を用いて示した．

A. 略語 (Abbreviations)

「略語表」を参照のこと．

B. 記号 (Symbols)

<：“from” の意味で，ある言語（言語群）から他の言語への移行を示す．これは見出し語が何に出来し，どのような語形をとって英語に取り入れられたか，その過程を示すものである．

di·a·dem … [ME *diademe* < L *diadēma* < Gk *diádēma* …]

この記号は，同一言語で歴史的段階が異なるだけの単語の間には用いていない．たとえば，ME (Middle English) と OE (Old English) の間，AF (Anglo-French) と OF (Old French) の間，NL (New Latin) と LL (Late Latin) と L (Latin) の間などでは省略した．

mad·der[1] … [ME *mad(d)er*, OE *mæd(e)re*; c. Icel *madhra* …]

sin·o·pis … [< NL, L]

<<：中間段階の語形は省略して，一つの言語から他の言語への移行を示す．これは “goes back to” と読んでよい記号である．

tick[3] … [ME *tikke, teke, tyke* (c. D *tijk*, G *Zeiche*) << L *tēca, thēca* …]

>：この記号に続く語が，この記号に先立つ語に由来するものであることを示す．これは見出し語と近縁関係にある現代の外国語の形を引合いに出すときに用いる．

yet … [ME *yet(e)* < OE *giet(a)*; c. MHG *ieze* yet, now > G *jetzt* now]

=：この記号の前に位置する語について，それをいくつかの構成要素に分解するときに用いる．

fer·re·ous … [< L *ferreus* = *ferr(um)* iron + *-eus* -EOUS]

+：見出し語を形成する構成要素を結ぶのに用いる．

bo·ron … [BOR(AX) + (CARB)ON]

deriv. of：この語に先立つ語があとに続く語から派生したものであることを示す．

bleed … [ME *blede(n)*, OE *blēdan*, deriv. of *blōd* BLOOD]

?：語源が不確実であるか不分明のときに用いる．場合によって “perhaps” または “unknown” の意に解すべきものである．

rag·gle … [?]

bird … [ME *byrd, bryd*, OE *brid(d)* young bird, chick < ?]

*：その語形が推定に基づく (hypothetical) ものに付けた．

C. かっこ (Parentheses)

1. 大かっこ ( ) は次の場合に用いる．
   (1) 分解された構成要素をさらに分解する場合：
   or·bic·u·lar … [ME < LL *orbiculār(is)* circular = L *orbicul(us)* small disk (*orbi(s)* ORB + *-culus* -CULE) + *-āris* -AR[1]]
   (2) ある語形に文法上またはその他の注釈を加える場合：
   in·her·ent … [< L *inhaerent-* (s. of *inhaerēns*) …]
2. 小かっこ ( ) は次の場合に用いる．
   (1) 分解を必要としない，または見出し語とは関係のない語源の部分を区切る場合：
   in·oc·u·late … [ME < L *inoculāt(us)* …]
   (2) つづりなどの省略を示す場合：
   bathe … [ME *bath(i)e(n)*, OE *bathian* = *bæth* BATH[1] + *-ian* inf. suffix]

D. 言語名の表示 (Language Labels)

斜体で示した語源の前に略記号を用いて，それぞれの言語名を示した．

1. 一つの言語名は初出の場合にのみ示し，同一言語に属する単語を続けて示す場合には省略した．
   bomb … [earlier *bom(b)e* < Sp *bomba* (*de fuega*) ball (of fire), akin to *bombo* drum …]
   《注》 *bombo* もスペイン語であることを示す．
2. 語源と見出し語との間に語形または意味上とりたてていうほどの相違がないときは，言語名のみを示した．
   in·land … [ME, OE; → IN-[1], LAND]
   base[1] … [ME < MF < L *basis* …]
   dart … [ME < MF < Gmc]
   win·ter·time … [ME; r. ME, OE *wintertid* …]
3. ある言語において，前出の語と形は同じで，意味だけが異なるときは，言語名のあとにコロンをおき，その解釈を示した．
   in·cen·tive … [ME < LL *incentiv(us)* provocative, L: setting the tune = *incent(us)* …]

E. 字体 (Typeface)

語源欄には，次の 3 種類の字体を用いた．

1. 立体：定義や文法的説明などに用いた．
2. 斜体：見出し語の語源となる単語またはその一部で，この辞典に見出し語として出ていないものを示すのに用いた．また外国語や ME, OE, *“obs.” “ecrlier” “dial.”* などの指示のある語および固有名詞などで見出し語として出ていないものを示すのに用いた．
3. スモールキャピタル体：見出し語としてこの辞典に出ていることを示すのに用いた．

F. その他

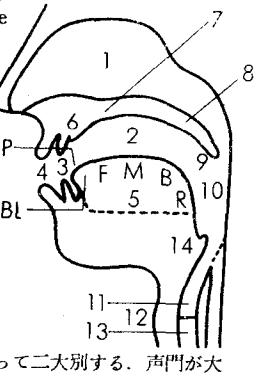
1. 単なる構成要素だけを示したものもある．
   de·vel·op·er … [DEVELOP + -ER[1]]
   sing·er[1] … [ME; → SING, -ER[1]]
   bat·fowl … [late ME *batfowlyn*. → BAT[2], FOWL (v.)]
2. 頭字語 (Acronyms) は，見出し語を構成する文字を除くすべてをかっこで囲み，イタリック体で示した．
   NATO … [*N(orth) A(tlantic) T(reaty) O(rganization)*]
   scu·ba … [*s(elf)-c(ontained) u(nderwater) b(reathing) a(pparatus)*]
3. 混成語 (Blends) は，スモールキャピタル体で示した．
   flur·ry … [FLUTTER と HURRY との混成]
   smog … [SM(OKE + F)OG[1]]
4. ふつうの語源的解説のほかに，その言葉のいわれなどを解説したものもある．
   Bríggsian lógarithm … [H. BRIGGS の名にちなむ; → -IAN]
   mag·no·lia … [< NL, フランスの植物学者 Pierre *Magnol* (1638–1715) の名にちなむ; → -IA]
5. 斜体のボールド体で示した見出し語の語義と字義どおりの意味の間に相違があるものは，次のように示した．
   haute é·cole … [lit: high school]
   maf·tir … [lit: dismisser]

発　音　解　説

I. 発 音 器 官(ORGANS OF SPEECH)

息は肺から出て気管を通り声帯に達する．声帯は喉頭の中にあって，水平に張られた1対の「ひだ」である．その2つのひだの間が声門である．息が咽頭を通ると，口と鼻の別れ道へ出る．口腔と鼻腔の境となっているのが口蓋で，後部は柔らかく，その先端は口蓋垂で，たれ下がっている．これが下がると息は鼻へ抜けて鼻音を生じる．口蓋垂が上がると，鼻への通路がふさがり，息は口へ出る．口蓋の前部の堅い部分（硬口蓋）が上歯に接するところ，すなわち上歯の後ろの出張った部分を歯茎という．英語の発音では（下歯茎でなく）上歯茎を用いる．

1. 鼻腔　nasal cavity
2. 口腔　oral cavity
3. 歯　{上歯　upper teeth / 下歯　lower teeth}
4. 唇　{上唇　upper lip / 下唇　lower lip}
5. 舌　{P　舌先　point of tongue / F　前舌　front of tongue / M　中舌　middle of tongue / B　後舌　back of tongue / R　舌根　root of tongue}
6. 歯茎　teeth ridge (gums)
7. 硬口蓋　hard palate
8. 軟口蓋　soft palate (velum)
9. 口蓋垂　uvula [jú:vjulə]
10. 咽頭　pharynx [fǽriŋks]
11. 声帯　vocal cords
    声門　glottis
12. 喉頭　larynx [lǽriŋks]
13. 気管　windpipe
14. 喉頭蓋　epiglottis



A. 無声音と有声音

すべての音声を声帯の振動の有無によって二大別する．声門が大きく開かれているときは，息（気息，呼気）(breath) はその間を通って声帯を振動させない．このときは無声音 (voiceless sound) となる．軽く閉じられた声帯を息が通ると振動する．声帯が振動する音が有声音 (voiced sound) である．

B. 母 音 と 子 音

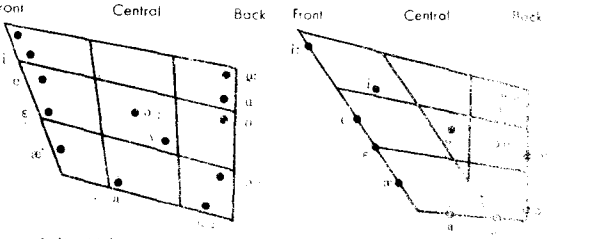
すべての音声を口腔内における舌・唇・歯などの発音器官の障害の有無によって二大別する．母音 (vowel) は妨害を受けないで自由に発せられる音である．声帯の振動を伴い，口の中のどこでも摩擦を起こさず，閉鎖されることもなく，何の障害もない，純粋な楽音 (musical sound) である．これに反して，子音 (consonant) は息がどこかの部分で妨げられ，一時止められ，または摩擦を生じる．母音はみな有声音であるが，子音は無声音と有声音の2種がある．[w], [j] は母音的音色を持ち，調音点も [u], [i] に近いので，半母音 (semivowel) といわれる．英語の子音の数は24，母音の数は学説によって一定しない．Jones 式では単母音 13 ([o] を含めて)，二重母音 9，計 21 であるが，*The Random House Dictionary of the English Language*（以下 RHD 方式と略す）では 19 である．

II. 母 音(VOWELS)

英米の単一母音相互の位置関係を，下の2つの図に示す．いずれも，上から下へ，高・中・低，左から右へ，前・中央・後ろを表わす．

以下の説明で，前母音 (front vowel)，中央母音 (central)，後母音 (back)；高母音 (high)，中母音 (mid)，低母音 (low) とあるのは，発音中に，舌の最高点が口腔内で占める位置によって名づけたもので，これらの名称の「前・中央・後，高・中・低」は，それぞれ，下の図の「前・中央・後ろ，高・中・低」に相当する．

A. 単母音 (Simple Vowels, Monophthongs)



米音の母音　　英音の母音

[i:] 高・前母音 (high front vowel)　equal, seat, bee などに用いられる母音．俗に "long e" という．平口で，口の開き方は母音中で最も狭く，舌は緊張する．mighty, candied のような語の語尾の弱音節で，今日，合衆国の大部分では，[i:] に似た母音が用いられるのが普通である．しかし，これは短母音であるので，[i:] で表記すると誤解を招くおそれがある．従って，この辞典では，このような弱音節の母音に，かつて一般的であった [i] を与えておく．英国発音では candied のような語が [i:] に類似の音で発音されることはない．candied も candid も同じ音である．なお，[i:] は，bee のような強勢のある音節で，しばしば，二重母音化する．この現象は，英米ともに，強勢のある開音節でよく認められる．

[i] 高・前母音 (high front vowel)　if, big, mirror などに用いられる母音．俗に "short i" という．舌はゆるむ．平口であるが [i:] よりは左右やや小さく，口の開きは少し大きくする．日本語の「イ」と「エ」の中間音．舌の位置は日本語の [i] よりもやや低く，後退する．語頭の弱音節（例: event）では [i] から [ə] までの変異形がある．[i] はまた furniture, citizen などの第2音節の弱勢の母音を示す．この場合は [i] から [ə] までの母音を示すものと考える．ただし，これは米国発音の場合である．

[e] 中・前母音 (mid front vowel)　ebb, set, merry などの母音．俗に "short e" という．日本語の「エ」とだいたい同じであるが，もう少し口を開き舌を少し低くする．[e]+r とか，bell, well の発音では，[e] は [ɛ] に近くなる．全般に米音では [ɛ] となる傾向がある．

[ɛ] [e] と [æ] の中間音．[e] よりも口がやや開く．二重母音 [ɛi] の最初の音．air, dare, Mary などで r の前に用いる．英国発音では [ɛə] となる．語尾（例: care, spare）では二重母音的であるが，語尾以外（例: Mary, careful）では，ふつうは単母音．r+母音の前では [ɛi] と表記してある．例: parent [pɛ́:rənt, pɛ́ər-]

试读结束，需要全本PDF请购买 www.ertongbook.com